

ドイツ語

ドイツ語科目の学修の目安(到達のポイント)および学習動機別の効果的な履修モデルは以下のとおりです。

(1)ドイツ語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	<p>ドイツ語の基本的な文法・語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、ドイツ語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるドイツ語的な発想(認知的枠組み)・思考・価値観・文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】日常的・身近な分野についての平易な文章なら比較的容易に読解できるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本的な文法・語彙を用いてごく簡単な内容のメールや手紙を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手が簡単な構文・語彙でゆっくり話す場合であれば理解でき、簡単なコミュニケーションがとれる。</p>	600	ドイツ語技能検定試験 4級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A1:スタートドイツ語 1程度)
中級	<p>ドイツ語を用いて、かなりの程度の実践ができるようにする。ドイツ語圏の国々の文化・社会・歴史についての知識・理解を一層深める。(夏休みにドイツでの短期語学研修に参加する機会を提供する。また、そのための準備をする。)</p> <p>【読む】辞書を用いて、日常・社会生活のテーマに関する比較的高度な内容・構文の文章を読解できるようになる。またウェブなどで記事の概要を把握でき、学習・研究に際して基本的な資料を使うことができる。</p> <p>【書く】やや長めのメールや手紙を書くことができるようになる。</p> <p>【話す・聞く】ドイツ語圏の国々に旅行した際に、基本的な意思疎通ができる。日常的な話題について平易なドイツ語で明瞭に話されれば理解できるようになる。</p>	1000	ドイツ語技能検定試験 3級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A2程度)
上級	<p>ドイツ語を多様な状況・テキストにおいてかなり自由に使いこなせる。また大学院などで、専門研究のための文献を扱うことができるようになる。</p> <p>【読む】専門的学術書・論文など高度な内容・構文のテキストも、辞書を用いて理解できる。</p> <p>【書く】前後の文脈との整合性、文体効果を考慮しつつ、より内容の豊かな文章を書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】日常生活や社会生活についての馴染みのある話題についてならば、ほぼ支障なく口頭で意見交換、質疑応答などのコミュニケーションがとれる。</p>	3000	ドイツ語技能検定試験 2級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR B1以上)

(2)ドイツ語履修案内

一橋ドイツ語科では、以下の授業を提供しています。

◆初級（総合）Ⅰ、Ⅱ

週2回でみっちり学ぶコース。法学部・社会学部一年生は必修ですが、商学部・経済学部の人にとっては自由選択科目ですので、2年生や3年生からこのコースを履修することもできますし、ためにⅠ（半年）だけ、あるいは場合によってはⅡだけを履修してみることもできます（Ⅰを履修せずⅡだけ、というのはあまり現実的ではありません）。

◆初級（速修）Ⅰ、Ⅱ

週1回で軽くドイツ語初級文法・実践をひとわり学んでみるコース。自由選択科目です。週2回授業を履修する余裕はないけれど、ドイツ語を一旦はぜひ学んでおきたいという人におすすめです。

◆初級（速修）

同じく軽くドイツ語初級文法・実践をひとわり学んでみるコースですが、こちらは週2回、半年の授業です。通年でじっくり学ぶ余裕がないけれど、半年間で集中して学べるならぜひやりたいという人におすすめです。到達範囲は、上の「初級（速修）」Ⅰ、Ⅱを併せて履修した場合と同じです。

◆初級（実践）Ⅰ、Ⅱ

基本的には、「初級（総合）Ⅰ、Ⅱ」を履修してみっちり学びたい人のための週1回の補填授業として構想されていますが、初級（速修）Ⅰ、Ⅱを履修している人にも有益です。（総合）や（速修）Ⅰ、Ⅱを履修する人は併せてこれも履修するとより効果的です。通年が理想ではありますが、（総合）Ⅰだけ、あるいは（速修）Ⅰだけとる人は、（実践）もⅠだけ履修することが可能です。ただし抽選科目で、（総合）Ⅰ、Ⅱを必修で履修する法学部生・社会学部生が優先されます。

◆初級（速修補填）

半年間週2回タイプの初級（速修）を履修して、最速で成果を挙げたい人のための週1回の補填授業として構想されており、初級（速修）と同学期の開講です。（総合）や（速修）Ⅰ、Ⅱの履修者で週1回の（実践）を履修しそねた人にもおすすめ。

◆中級

ドイツ語中級は、科目としては、「コミュニケーション」「読解」等に分かれてはいませんが、授業によって、実践系のものと読解系のものなどがありますから、シラバスを見て、自分に合った授業を選んでください。

◆上級

上（中級）に同じ。

～おすすめの初級組み合わせ～

みっちり堪能コース(週3回通年): 初級(総合)Ⅰ、Ⅱ(週2回)+初級(実践)Ⅰ、Ⅱ(週1回)

あっさり満足コース(週2回通年): 初級(速修)Ⅰ、Ⅱ(週1回)+初級(実践)Ⅰ、Ⅱ(週1回)

フルスピード到達コース(週3回半年): 初級(速修)(週2回)+初級(速修補填)(週1回)

のんびりお試しコース(週1回半年): 初級(速修)Ⅰ(週1回)

次に挙げるの表は、学習動機別の履修モデルです。「1年次」というのは、必ずしも「1年生のとき」という意味ではありません。2年生・3年生からドイツ語を学びはじめることもできます。例えば法学部生・社会学部生で1年生のときは別の言語の必修授業をとったけれど、2年生からドイツ語も学びたいという人、あるいは、商学部生・経済学部生で、1年生のときは余裕がなかったけれど2、3年生になって少し余裕ができたから何か新しい言語を学びたい人などが、新しくドイツ語を学びはじめる年、それもまた「1年次」です。

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門(研究・仕事)でドイツ語を活用したい。
効果的な履修モデル	<p>【1 年次】</p> <p>1)「初級(総合) I・II」(週2回)を通年で、あるいは「初級(速修) I・II」(週1回)を通年で履修し、加えて「初級(実践) I・II」(週1回)を通年で履修。</p> <p>または</p> <p>2)「初級(速修)」(週2回)を履修し、加えて同学期に開講される「初級(速修補填)」(週1回)を履修。</p> <p>【2 年次】中級 2～3 コマを履修。コミュニケーションと読解の授業をなるべくバランスよく選択する。</p> <p>【3～4 年次】上級 2 コマ程度、およびドイツ語を扱う後期ゼミを履修。</p> <p>いずれの場合も、夏休みに行われる短期語学研修に(特に2年生の夏に)参加することがおすすめ。</p>
学習動機	将来ドイツ語を専門的に用いるかどうか分からないが、旅行などでは役に立てたい。または研究や仕事の資料調査で概要を把握できるくらいにはなりたい。
効果的な履修モデル	<p>【1 年次】</p> <p>1)「初級(総合) I・II」(週2回)を通年で、あるいは「初級(速修) I・II」(週1回)を通年で履修し、加えて「初級(実践) I・II」(週1回)を履修。</p> <p>または</p> <p>2)「初級(速修)」(週2回)を履修し、加えて同学期に開講される「初級(速修補填)」(週1回)を半履修。</p> <p>【2 年次】中級 2 コマを履修。会話を重視するか資料調査力・読解力を重視するか、希望によって、ふさわしい授業を選択する。</p> <p>【3～4 年次】上級 1 コマ程度、またはドイツ語を扱う後期ゼミを履修。</p> <p>いずれの場合も、夏休みに行われる短期語学研修に(特に2年生の夏に)参加することがおすすめ。</p>
学習動機	ドイツ語圏の歴史や文化に興味があり、ドイツ語にも直接触れてみたい。
効果的な履修モデル	<p>【1 年次】初級(総合) I、II (週2回)を通年履修あるいは初級(速修) I、II (週1回)を通年履修、あるいは初級(速修) (週2回)を履修。</p> <p>【2 年次】1年次の学習の結果、より深く学んでみたい気持ちになったら、中級 1 コマ以上を履修。人文学科目のうちドイツ語圏に関わる講義(ドイツ語圏地域文化論など)を1～2コマ履修するなど。</p> <p>【3～4年次】中級を継続して履修、さらには上級に挑戦。</p>
学習動機	特にドイツやドイツ語に深い関心があるわけではないが、余裕があれば、いろいろな言語に触れてみたい気持ちはある。
	<p>【1年次】初級(総合) I を半年履修、あるいは、初級(速修) I を半年履修。興味をもてたら、続いて初級(総合) II あるいは初級(速修) II を半年履修。</p> <p>【2年次】より深く学んでみたい気持ちになったら、中級1～2コマを履修。</p> <p>【3～4年次】さらに学びたい場合は、継続して中級を履修、さらには上級に挑戦。</p>